

目的 食生活は、生理的・心理的な要素が関連し、とりわけ心理的欲求面からの摂食行動が充足されない場合は、生理的欲求が充足されていても精神的な満足感は得られないといえよう。従って食行動研究は、この二要素から検討する必要があると思われる。前報告において生理的充足状況の一指標として、摂取食品状況をとらあげ、これと生活行動との関連を観察した。本報では、心理的充足状況の一指標として、食生活満足感をとらあげ、このものと生活行動との関連について観察してみた。

方法 1974年静岡市周辺の企業に勤務する男子1400名を対象とした。調査内容は、食生活行動・生活感・一日の食事に関してアンケート調査を取場留置法により実施した。分析は、クラマ-係数 $\sqrt{r} = 0.14$ 以上を関連ありとし、 E 。

結果 1) 食生活満足感は、他の生活満足感と関連があり、仕事・余暇生活満足者は食生活においても満足している者が多い。2) 未婚か既婚かの相異によって、調査項目間の関連強度は異なる。未婚者では、住居形態の相異によって食生活満足感は異なっており、単身生活者は、家族同居生活者と比べ食生活不満足者が多い。既婚者については、収入の多い者ほど食生活満足者の割合は高くなる。3) 食生活満足者の食行動をみると、毎日朝食を喫食しており、外食頻度も少なく、家人の栄養管理に対する配慮がなされている者であった。